

「生命の教育」創始者谷口雅春先生 今月の言葉

## 明るく調和した家庭を築きましょう

子供は小さい時から、親の姿に影響を受ける

夫婦喧嘩ふうふけんかというものは、子供の教育に非常に影響するのであります。実験心理学の実験に於て、皆さんの前に一様いちように水を入れたコップを入れておいて私が水を飲めば、皆さんもその通りに水を飲まれる。それと同じく親が心に怒いかれば、その通り子供の形に現れて来るのです。これを児童の模倣性もぼうせいと申しております。親が夫婦喧嘩をしているのを子供の時に見せておくと、子供が成人して大人になると同じように夫婦喧嘩をするようになるので

あります。子供を叱しかる場合などでも、皆さん反省して御覧ごらんになれば、きっと、自分が子供の時、親から叱しかられた通りの言葉をいつて子供を叱りつけている事実じじつに、みずから愕然がくぜんとして驚く事があるのであります。それは知らず識らずしじの中に心こころの中に蓄積ちくじきされた観念くわんねんが、長い年月を経ても失われずに現れて来るのであります。そう考えると、何事でも悪い手本は迂濶うかつには見せられないと思わせられるのであります。

（新編『生命の真相』第22巻43～44頁）

## 夫または妻の「神」なる実相を見る

人間の实相は「神の子」であり、「仏子」であり、ミコトであります。吾々は吾々の良人の中に、妻の中に、その実相を見て家庭生活を営まねばならないのです。吾々は、互々々の人格のうちに「神の子」を見、「仏子」を見、ミコトを見て尊敬しなければならぬのであります。一旦迎えた良人なり妻なりは外面に現れた現象がどうあろうとも、その現象の悪さを以つて、良人そのもの、または妻そのものの悪さと思つてはならないのであります。ジャン・バルジャンが盗みをしていなくても盗みをしていない本来善い人間であるところの実相を見て、遂にジャン・バルジャンを善人にしてしまった彼ミリエル司祭のように、吾等も良人又は妻の本来「神」なる実相を見なければならぬのであります。出来るだけ妻は良人の、良人は妻の、欠点を見ないように、暗い方面を見ないようにしなければならぬのであります。（新編『生命の實相』第24卷128〜130頁）

## 相手の善さを観るとき、善き家庭が現れる

現に悪しく現れている良人、または妻を、どうしてその善さのみを見ることが出来るでありましょうか。問うをやめよ。肉体としての顕れは人間ではないのであります。彼自身ではないのであります。真の人間は、真の彼自身は、肉体の奥に埋されている「神性」であり「仏性」であります。現われは如何にもあれ、常不輕菩薩のように、良人は妻の、妻は良人の、実相を観て、その「神なるもの」を賞め讃えなければならぬのであります。「ああここに真実よき良人がいる」「ああここに真実よき妻がいる」「ああここに真実よき子がいる」そう思つて皆様よ、家族の者たちよ、互に相愛せよ。吾らすべての人間の实相は「神子」であり、「仏子」であり、どれほど讃嘆し合つても言い顕わすことが出来ない善美の真を備えているのであります。そう思つて人間を観よ、良人を観よ、妻を観よ、両親を観よ、子を観

よ。そう努めるとき、その善さは次第にハッキリと見え  
て来るであります。相対する人間が変貌し、家庭が  
変貌し、全世界が変貌し、全世界のすべてがその人の前  
で光り輝いて見えて来るであります。何というそれ  
は愉快なことであります。

(新編『生命の實相』第24巻133〜134頁)

### 幸福な家庭を築くのは、あなたの心次第

およそ相手を良くするには自身を良くすることが第一  
であります。自身が良くならないのに相手をよくなし得  
るということは困難であります。そしておよそ自身を良  
くするための方法は、自分の心の中に光明の精神波動を  
照り輝かすことであります。(中略)人の欠点を見るとき、  
その欠点に自分の心が捉われ、それをとやかく言挙げす  
るとき自分の心の中には暗黒の思念が波打たずにはいな  
いでしょう。「暗黒の思念」は決して相手を良化するこ  
とは出来ないのです。良人をよくしてやろうと思つて小

言をいう細君が良人を益々悪くするのは、細君の心の中  
に「暗黒」の思念が波打っているからであります。細君  
を良くしてやろうと思つて叱りつける良人が細君を良化  
し得ないのも、細君を叱るとき良人の心には「暗黒の  
思念」が波立っているからであります。相手を良化しよ  
うと思うならば、先ず自分の心の中から「暗黒の思念」  
を除去しなければなりません。先ず自分自身を、「光明思念」  
でみかさなければならぬ——換言すれば相手の悪を見  
るような心になつてはならないのです。(中略)

妻は良人の実相の円満完全なる姿を見るようにすると  
き良人と完全に調和してしまふのです。良人は妻の円満  
完全なる姿を見るようにするとき妻と調和してしまふの  
です。親は子の実相を、子は親の実相を見、執着の念  
を捨て、神の完全な護りの中にあることを信じて、相手  
を神にまかせ預けると、親子は調和したものとなつて  
しまふのです。そしてその家庭は幸福の家と化し、その  
生活は天国浄土となつてしまふのであります。

(新編『生命の實相』第24巻161〜163頁)